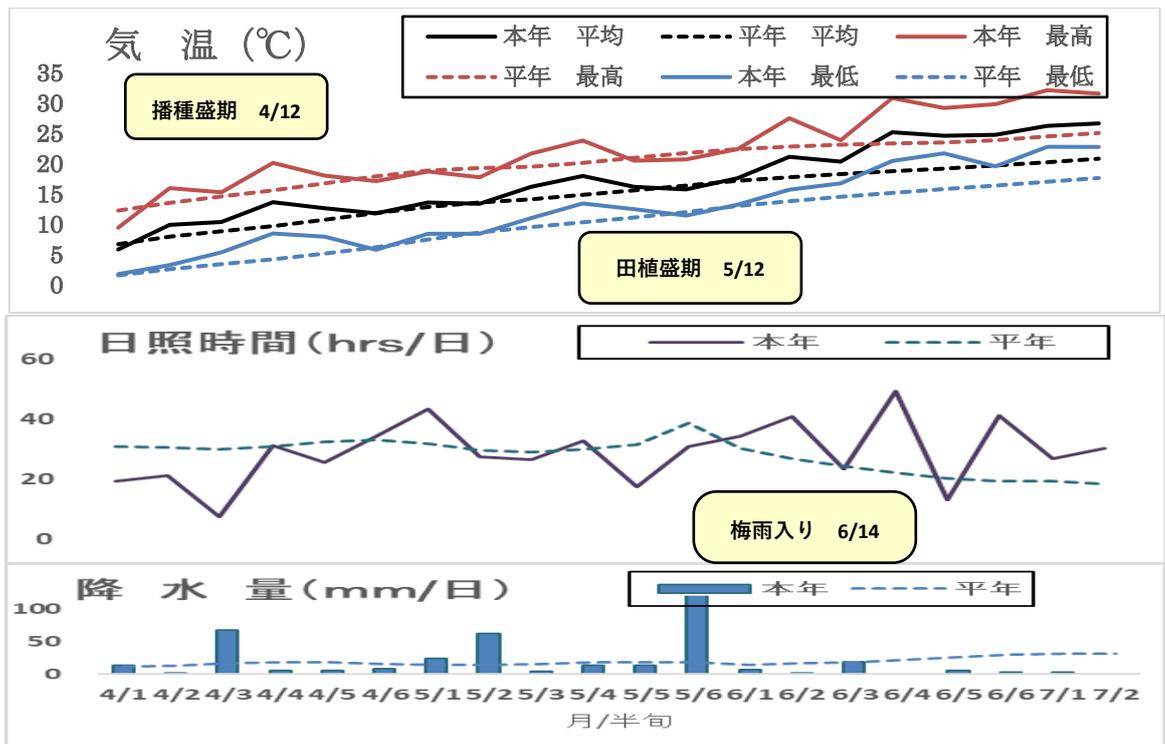


～県平均出穂期は前年並み～ 平年並みの見込み～

～水管理は飽水管理を！ 適期追肥と病害虫の適期防除を！～

## 1 令和7年の気象経過（古川アメダス）と東北地方の1か月予報



### ◆7月10日発表 東北地方の1か月予報(7月12日～8月11日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・東北太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。期間の前半は、気温がかなり高い状態が続く見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率 80%、平年並み若しくは低い確率 10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率 30%、少ない確率 40%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率 40%、少ない確率 30%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 07/12～08/11	10% (低)   10% (平)   80% (高)
		1週目 07/12～07/18	10% (低)   10% (平)   80% (高)
		2週目 07/19～07/25	10% (低)   10% (平)   80% (高)
		3～4週目 07/26～08/08	10% (低)   40% (平)   50% (高)
降水量	東北日本海側	向こう1か月 07/12～08/11	30% (低)   40% (平)   30% (高)
	東北太平洋側	向こう1か月 07/12～08/11	40% (低)   30% (平)   30% (高)
日照時間	東北日本海側	向こう1か月 07/12～08/11	30% (低)   30% (平)   40% (高)
	東北太平洋側	向こう1か月 07/12～08/11	20% (低)   40% (平)   40% (高)

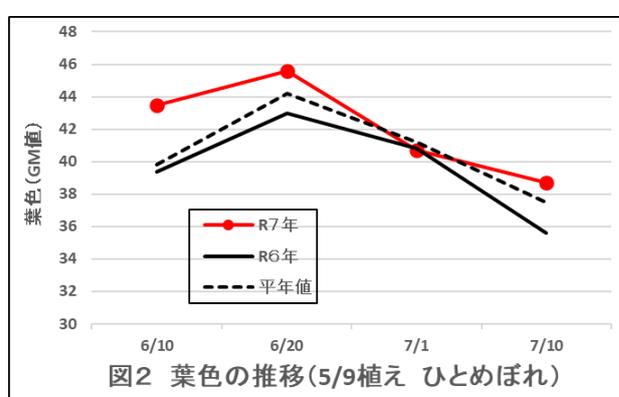
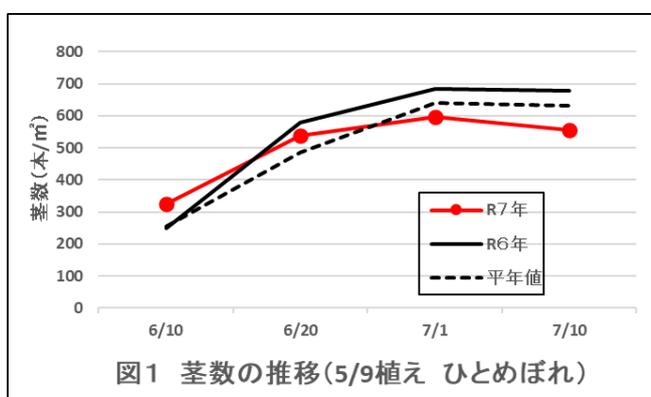
■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2 生育状況（7月10日現在）

(1) 作況試験 5月9日植え ひとめぼれ（古川農業試験場）

- ・草丈は71.7cmで平年比112%，茎数は557本/m<sup>2</sup>で平年比88%である。
- ・葉色（GM値）は38.7で，平年より高く，前回調査時より低下している。
- ・葉数は10.9枚で平年より0.4枚多く，生育ステージは平年よりやや進んでいると見込まれる。
- ・幼穂長は7.4mmで，平年より1日早い7月6日頃に幼穂形成期に達したとみられ，出穂期は7月31日頃と予想される。

移植日	草 丈			茎 数			葉 色			葉 数			幼 穂 長		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)
5月9日	71.7	107	112	557	82	88	38.7	3.1	1.2	10.9	0.2	0.4	7.4	5.6	5.8

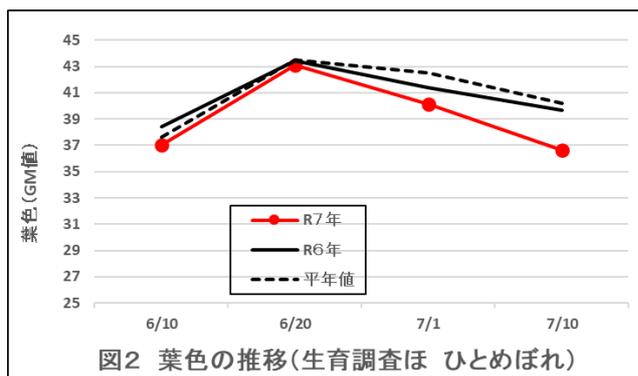
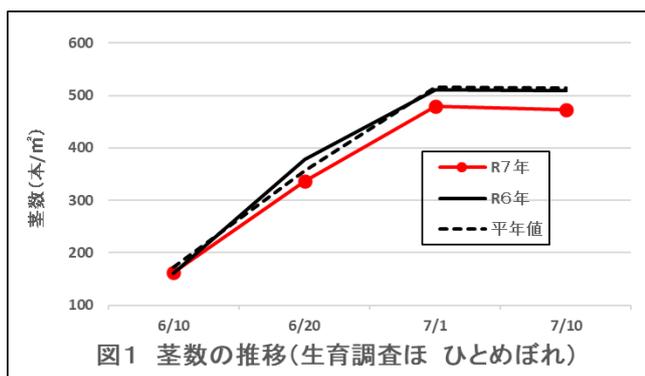


(2) 生育調査ほ（古川農業試験場及び各農業改良普及センター）

- ・品種別の草丈は67～71cm程度，平年比107～113%で，平年より長い。
- ・茎数は435～473本/m<sup>2</sup>，平年比79～92%となっており，平年より少ない。
- ・葉色（GM値）は34～38程度で，平年より低下している。

●古川農業試験場の「作況試験」や「生育調査ほ」の調査結果から推察すると，草丈は長く，茎数は少なく，葉色は平年より低く，生育ステージは概ね平年並みと思われる。

品種名	草 丈			茎 数			葉 色		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)
ひとめぼれ	69.5	105	107	473	93	92	36.6	-3.1	-3.6
ササニシキ	67.1	104	107	473	85	79	34.2	-5.0	-4.8
つや姫	71.4	111	113	435	93	87	37.6	-1.7	-4.3



- ・ 移植時期別（ひとめぼれ）の草丈は 66～73cm 程度で， 平年比 104～110% である。
- ・ 茎数は 452～542 本/m<sup>2</sup> で， 平年比 86～96% である。
- ・ 葉色は 35.4～38.9 で， いずれの移植時期でも平年より低下している。

●草丈は長く， 茎数は少なく， 葉色が低下してきている。

移植時期	草 丈			茎 数			葉 色		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)
5/1～9	72.9	106	110	542	100	96	37.5	-0.1	-3.3
5/10～19	69.1	106	109	452	92	92	35.4	-5.1	-3.9
5/20～31	66.3	107	104	499	86	86	38.9	-1.3	-3.5

### (3) 幼穂の生育状況【参考】

- ・ 7月7日調査；JA いしのまき管内の「つきあかり（5月3日移植，ひとめぼれより3～4日程度早い品種）」で，幼穂長 8.4mm であった。出穂期は7月27～28日頃と見込まれる。

◆7月25日頃から，早生品種や5月上旬植えの中生品種（「ひとめぼれ」や「ササニシキ」など）の出穂が始まり，県平均の出穂期は前年並み（7月29日頃）～平年並み（8月1日頃）と見込まれる。

## 3 今後の管理

### (1) 水管理

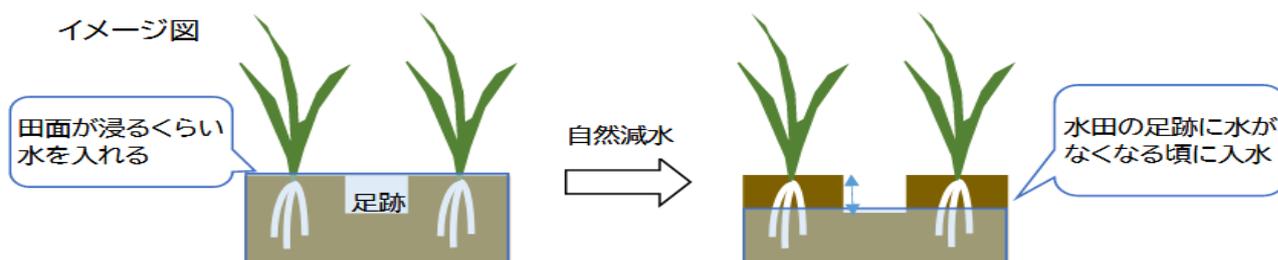
- ・ 出穂前から出穂後 30 日頃までの期間は，稲が最も水を必要とする時期である。
- ・ 今後も高温が続くと予想されていることから，出穂前から出穂後 30 日頃までは，土壌を湿った状態に保つ「飽水管理」を行う。

#### ●飽水管理の方法

- ①水尻を閉め，畦畔からの漏水が無いか確認する。
- ②田面がひたひたに湿るくらいに水を入れる。
- ③水を止めたら，水尻は閉めたまま，自然減水させる。
- ④水田の足跡に水が無くなる頃（目安は3～5日おき），次の水を入れる。

#### ◆飽水管理のメリット

- ①限られた用水で，水管理が可能である。
- ②地面が見える（空気が土の中に入る）ので，根の活力維持に有効である。
- ③湛水状態（水が暖められ，夜間も温度が下がらない）と異なり，地温の上昇を抑制できる。
  - 稲の温度が夜間に下がるため，光合成により作られた養分が靱に転流しやすくなる。
  - 「白未熟粒」や「胴割粒」の発生を抑制できる。



(2) 肥培管理

- ・今年施肥窒素の減少が平年より早い（令和7年7月4日 良質米づくり研修会）。
- ・**今年は葉色の低下が昨年より早く、早めに肥料が切れる可能性があるため、適期に追肥を実施して、葉色の低下を防ぐ（白未熟粒の抑制に有効である）。**

◆品種ごとの追肥窒素量(kg/10a)は、以下を目安にする。

品種名	ひとめぼれ	ササニシキ	だて正夢	金のいぶき	つや姫・まなむすめ
幼穂形成期	1	-	-	1	2
減数分裂期	1	1~1.5	2	1	-

◎「だて正夢」の場合、有効茎数が少なく穂数不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kgずつ分けて施用し、適正籾数の確保を図る。

◎「金のいぶき」の葉色は、「ひとめぼれ」に比べ淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下する。このため、減数分裂期の葉色値（SPAD502値）が30以下にならないよう、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg程度施用し、減数分裂期の葉色値を30~32程度に維持する。

(3) 病害虫防除【宮城県 病害虫防除所ホームページより】

① いもち病

- ・宮城県病害虫防除所が公表した「発生予報 第5号（7月2日発行）」によれば、葉いもちの発生時期は「平年並みの7月第3半旬」で、発生量は「平年並み」と予想されている。
- ・「葉いもちの感染好適条件の出現状況（BLASTAM）」による推定では、6月下旬に感染好適条件が発生した（前号参照）が、7月上旬は発生がほとんど見られない（下表参照）。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/2	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/3	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
7/4	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/5	●	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	△	○	-	-	-
7/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上, 平均気温15~25℃, 前5日間の平均気温20~25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが, 前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
-	好適条件なし	
?	判定不能	

- ・ 7月中旬以降は予防粒剤の効果が低下し始めるとともに、追肥で葉色が濃くなり、葉いもちが感染しやすい環境になるので、特に注意する。
- ・ 上位葉での発病は「穂いもち」の伝染源になるので、葉いもちの発生が確認された場合は、速やかに茎葉処理剤を散布する。
- ・ 穂いもち予防のための水面施用剤の散布適期は、出穂 20～10 日前頃である。
- ◆ 「金のいぶき」は、いもち病に弱いので「3回防除」を基本とする。

② 紋枯病

- ・ 防除所が実施した巡回調査によれば、発生地点率は「平年並み」、発病株率は平年より多く、発生量は「やや多」と予想される。
- ・ 前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では、要防除水準を参考に防除を検討する。「要防除水準」については、宮城県病害虫防除所のホームページを参照されたい。

③ 斑点米カメムシ対策

- ・ 防除所が実施した巡回調査によれば、水田におけるアカスジカスミカメ成虫の発生地点率は平年より高く、すくい取り虫数は平年より多かったことから、「防除情報 第4号」を発行し、水田周辺の草刈り及び薬剤による適期防除を呼び掛けている（前号参照）。
- ・ 発生源となる畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、7月中旬（水稻出穂の10日前まで）を目安に草刈りを実施する。
- ◆ アカスジカスミカメ成虫の発生消長と防除体系は、下表のとおりである（宮城県病害虫防除所ホームページより）。

